



サクラ・モモ・ウメがピンチ！ 「クビアカ」による被害が拡大



クビ（前胸）がアカいクビアカツヤカミキリ（実寸大）
体長20～40mm（触角含まず）

「クビアカツヤカミキリ」（左図）は、幼虫がサクラ・モモ・ウメなどのバラ科の樹木に入り込み、内部を食い荒らし枯れさせます。2012年に日本国内で初めて被害が確認され、全国各地で急速に分布を拡大。2018年1月には「特定外来生物」に指定されました。

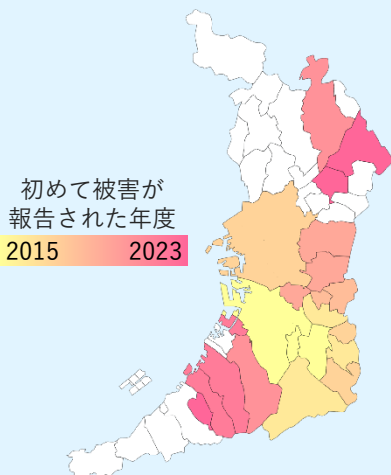


養分・水分の通り道
まで食い荒らし
枯死させる

幼虫に食い荒らされたサクラの木の断面

大阪府内では2015年に初めて確認。2024年3月時点で22市町村において被害が確認されています。（左下図）

クビアカツヤカミキリの幼虫がいる樹木の幹・枝・根からはフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの、下図）が大量に出ます。（右図）



初めて被害が
報告された年度
2015 2023

被害が報告された府内市町村



サクラの根元から
大量に出た「フラス」



- ・成虫を発見したら、その場で踏みつぶして駆除してください
※成虫や卵・幼虫などを生きたまま持ち運ぶことは、外来生物法により禁止されています
- ・フラスを発見したら、すぐに管轄の市町村に相談してください
- ・土地や施設の管理者の方は、速やかに駆除・対策をお願いします

「クビアカ」の被害を食い止めないと

モモやウメが食べられなくなったり、サクラを見られなくなったりする可能性

早期発見・早期対策が極めて重要 ご協力をお願いします

クビアカツヤカミキリの生活史

❗ **フラスに注意!**

① 9～11月頃

樹皮に産みつけられた卵が孵化すると、幼虫は木の内部を食べて成長し**フラス**を出します。



卵

② 12～3月頃

1年目の冬はそのまま活動を休止。

❗ **フラスに注意!**

③ 4～11月頃

幼虫が活動を再開。木の内部を食べて成長し**フラス**を出します。木の奥に蛹室を作ります。



④ 12～3月頃

2年目の冬は、幼虫は蛹室にいます。



ようしつ
蛹室
(さなぎの部屋)

❗ **成虫に注意!**

⑥ 6～8月頃

成虫になり、飛び回ります。平均350個産卵し一生を終えます。



⑤ 4～5月頃

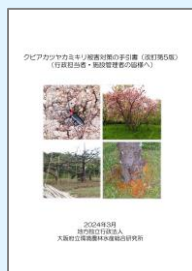
蛹室にいる幼虫はさなぎになります。



被害の見つけ方や駆除などの方法はホームページにて



防除マニュアル



ネットの巻き方
解説動画